

# 潮見神社くんち奉納準備説明文

鳥居注連縄飾り付け班

●準備するもの

青竹 長さ7.2m～8m 6本

縄 2巻 宮司方前の注連縄用 5m 全体で220m

細巻 花立の飾り用 少量（上記でも代用できるが縛りにくい）

御幣 左右各1枚セットを3組 7・5・3のワラ3組

花立飾り用のワラ 2束程度

●道具

梯子（鳥居まで届く長さのもの）2脚、縄を切るはさみ、竹切のこ、メジャー

●段取り

縄を14m、11、5m、7、7mの物を各6本作成し、3種各2本を1セットにする

同様に、御幣、753のワラ、水、花柴を準備、道具を持って1の鳥居へ

●青竹の長さの調整

・鳥居の高さは約3.4m

・鳥居の天面から更に約80cm上くらいからササを残す

・笹の部分は約3m程度。長すぎると周辺の樹木に邪魔になる。

図1

●青竹の取り付け（上段）

・梯子を鳥居の石柱の両サイドに立かけ一人は青竹を支え、両サイドの梯子に1名ずつ登る

写真1

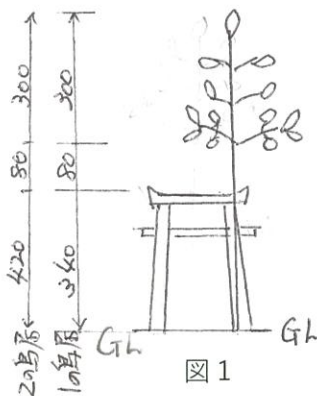


図1

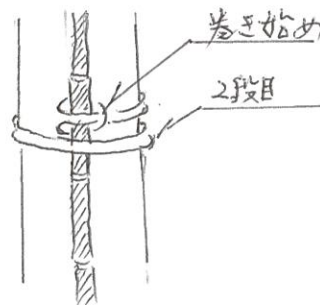


図2



写真1

・鳥居入り口側の方が縄をダブルにおり、片方を約1m長くして右図の様に青竹に取りつける

図2

・しっかり絞りながら2本の縄を石柱に右から廻して上段から下段へと巻き付けていく

・3段巻き付けると6本の縄目が並ぶので、最後の長い方の縄をもう一回巻き、7段とする

図3

・締め込みにかかるが、2本の縄を青竹の上を通過して右下側から青竹をくぐらせ、左下側へ通す

・そのまま、7本の縄の上を通過して青竹の左上へとくぐらせ、右上へ出しきつく絞り込む

図4

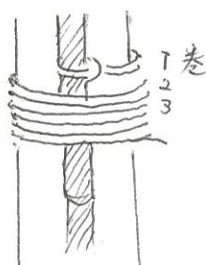


図3

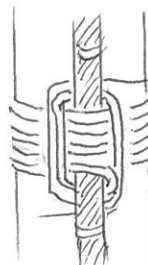


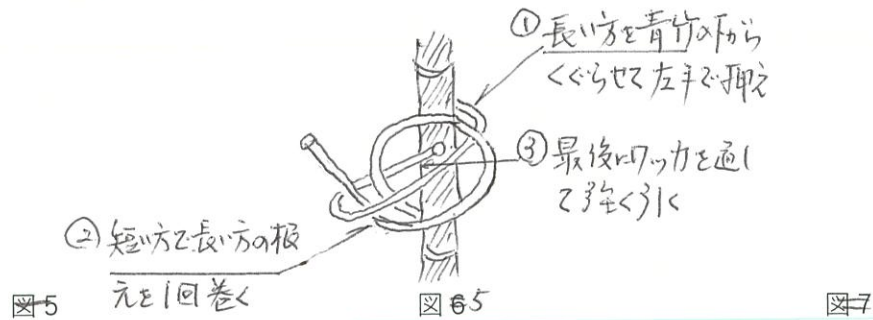
図4

- ・出した縄を7本の縄の上を通して青竹の右側から再度青竹をくぐらせ、ここできつく絞りこむ
- ・これで結びの形ができたので、長い方の縄を再度左上から青竹の下をくぐらせ右側に出す
- ・出した縄を右上から結び目の真中へ持ってきて左手で押さえる
- ・もう一方の縄で、左手で押さえた縄の基の方を時計回りに1回まわし左手で押さえる
- ・最初に左手で押さえていた方の縄で、上で作った輪の根本を時計回りで絞めてから輪を通す
- ・わっぱの側の縄を強く引いて絞って完成

図5

図6

図7



●上段から約90センチ下で中段を上記要領で括りつける

- ・目安は石柱に縄目のあとがぼんやりと残っているのを目印にしてもよい
- ・縄の結び数は5段となる

図8

●下段の結び

- ・中断から90センチ下。縄目跡を目安でよい
- ・縄の結び数は3段となる

図8

●注連飾り

- ・鳥居の上の両サイドの青竹の笹の付け根部分に縄を括りつけて渡す
- ・縄に御幣を両サイドに取付、753のワラを上宮から見て753の順に取り付ける

図9

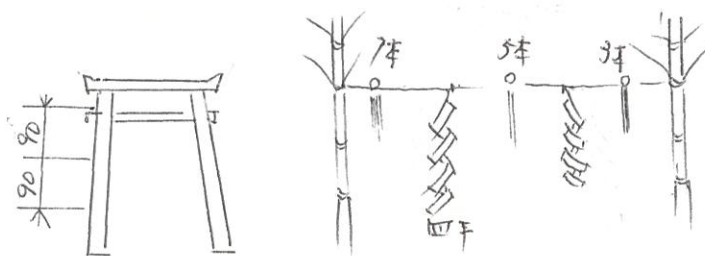
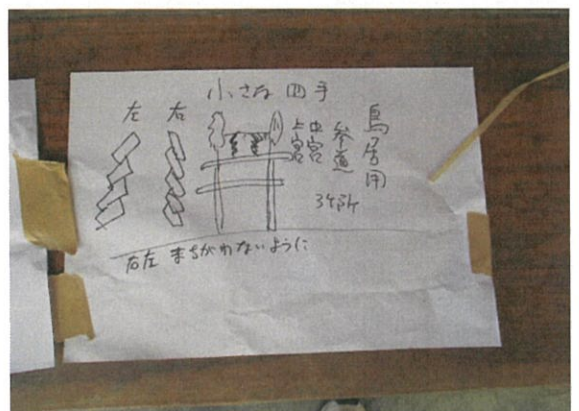


図8

図9





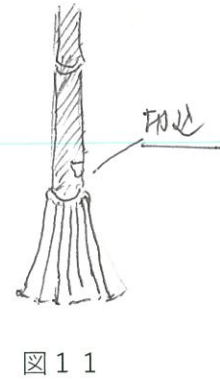
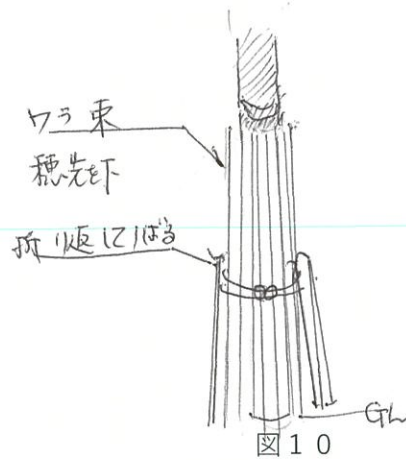
●花筒つくり

- ・わらを一握りつかみ、穂先を上にして下を揃える。後で袴部分になるのできちんと揃える。
- ・穂先を下にして地面につけ、半分よりやや下を縄で結わえる。
- ・ワラを縄部分の上から手前に折り曲げて折り返した袴部分が地面につくようにする
- ・形が整ったら折り曲げ部分より8cm位下を縄で結ぶ
- ・袴の直上にのこで切りこみを入れ花筒とする。
- ・水を入れ榊を1本飾る

図10

図11

図11



●旗指物の位置と長さの調整

- 上宮社前 「氏子中」の指物 エスロン筒は1段
- 3の鳥居前「潮見三夜待」の指物 エスロン1段
- 下宮社前 「村山」の指物 エスロン1段
- 2の鳥居前「西村輝治」の指物 エスロン2段

図12

- ・仮に新しい旗指物の寄付があれば、2の鳥居前に新品を据え、順に上宮側へひとつづつずらす
- ・但し上宮社前の氏子中は常に使用（新調しない限り）

